

三河本苑だより

9月号

2023.9 No.496
(発行者)

大本三河本苑

〒443-0031

蒲郡市竹島町28-5

TEL 0533-69-7518

FAX 0533-69-1455

9月月次祭祝「敬老会」

本苑月次祭では、徐々に参拝者も増えてきました。また、お茶席、直心会による直会も復活しました。さて、9月月次祭では御長寿を寿ぎまつり、皆さまとともに大神さまに感謝したく思います。ご家族揃ってご参拝をお願いいたします。

令和5年7月月次祭 本苑長あいさつ

今回本苑長挨拶として、先月6月4日熊本にて執行されました、み手代下付100周年記念祭典の開催意義について考えてみたいと思います。

前日10月14日(土)午後1時より
全員参加の本苑清掃を行います。役員の方は、午前10時より駐車場草取りをよろしくご協力お願いします。

令和5年 三河本苑秋季大祭・秋季合同慰霊祭のご案内

本苑信徒の皆様方におかれましては、日々のご神業並びに生業にお励みの事と存じます。令和5年度三河本苑秋季大祭、合同秋季慰霊祭を下記の通り開催いたします。

大祭・慰霊祭にご参拝出来ない方は、お預かり玉串をお供えいただきましたら有り難く存じます。 大祭委員長 河合 恭久

【日時】 令和5年10月15日(日)

午前10時より

【場所】 大本三河本苑

【諸行事】 ・冠沓句巻開き・添え釜
・記念講話・信徒作品展

《◎募集!! 冠沓句は9月月次祭まで、信徒作品は大祭前日午後1時、高井まで》

100年前の大正12年、聖師さまは熊本県杖立温泉に18日間逗留され、おみやげとして竹の杓子160本を持ち帰られました。そして直ぐ、役員信徒にお杓子のみ手代としてご下付されました。神教宣伝使、今の宣伝使を任命されたのは2年後の大正14年でした。組織を作るよりも一刻も早く個人の救済をしたいという、「組織よりもまずご用から、個人の救済から」との聖師さまの強い思いが伝わって来ました。

また聖師さまは、大正13年のモンゴル入蒙に先立ち、尾山昭吉宣伝使をブラジルに派遣しました。ブラジル宣教の始まりです。目的はみ手代宣教でした。宣教も、まずみ手代の個人救済から始めることが大切という、「善き型をまずみ手代から」との聖師さまの強い思いが伝わって来ました。あれから100年、令和の五六七

本苑長 加藤 三樹
を迎えた今、教主さまはごあいさつで繰り返し繰り返し、み手代お取次ぎの大切さをお示しされ、聖師さまの思い「まずみ手代の個人救済のご用から」の実践を促されています。

令和3年11月全国誠心会／直心会／青松会／青年部の四部会長会議において、教主さまは「2つのお願い」をされ、その1つが次のお願いでした。「み手代は神さまから授けられた神器であり、神さまのお取次ぎをさせていただきます。尊い大切なご用です。多くの人がみ手代を捧持してお取次ぎをさせていただきます。特別な、大きな力となります。特にこのコロナ禍、多くの人が遠隔にお取次ぎにより大きなおかげをいただかれています。お取次ぎを受けられる方はもちろんありがたいことですが、お取次ぎをさせていただきます。自分たちも、本当にありがたい経験を見せていただければ、大きな喜びは皆で分かち合いたいと思います」と。

「お取次ぎをさせていただきました。お取次ぎを受けられた方ももちろん喜ばれ、その周りの方も喜ばれ、そしてその喜びがまた自分に返ってきます。そして一番喜ばれるのは神さまです。この喜びの連鎖が世の中を少しずつ良くしていくと思えます。どうぞ、積極的に、まごころを込めてみ手代のご用にお努めください」と。

今年5月4日亀岡で開催されました全国特任宣伝使研修会の冒頭、鈴木林太郎愛善宣伝部長は参加者全員へお取次ぎをされました。会場に見えるお一人おひとり、一度にお取次ぎすることは大変勇気がいることです。み手代の権威を確信しているからできることです。本部宣伝使の率先垂範に勇気をもりました。

私たちが、聖師さまの思い「まずみ手代の個人救済のご用から」、教主さまのお願い「ありがたい経験、喜びを皆で分かち合いたい」、「お取次ぎの喜びの連鎖が世の中を少しずつ良くしていきます」に神習い、また本部宣伝使の率先垂範を見習って、積極的に、まごころを込めてみ手代のご用に努めていきたいと思えます。

令和5年 芸術部 秋季大祭奉納冠沓句の募集

【冠句題】 ・あざやかな・しっかりと
・本苑に(本苑は)
【沓句題】 ・道の友
【×切】 9月17日(日)の本苑月次祭までです。宜しく願います。

- 9月の行事
 - 11日(月) 第21回全国一斉世界平和祈願
 - 17日(日) 本苑9月月次祭 敬老会
 - 24日(日) 宣伝使研修会
 - 10月の行事
 - 15日(日) 本苑秋季大祭・祖霊慰霊大祭・奉納冠沓句 お茶席 信徒作品展
 - 18日(水) 霊界物語全国一斉拝読会
 - 九月添釜 三代様を偲ぶ茶会
- 三代様三十二年祭をお迎えし一服のお茶を差し上げます
芸術部／直心会第一ブロック

「マイ祝詞」「マイ箸」「マイボトル」「マイタオル」持参でお願いします

私の思い これから

三河豊田支部 杉山 教子

新しい神の家が出来上がってから、一年余り経ちました。皆さんは本苑に参拝されましたでしょうか。新しい木の香り、畳の匂いも馴染んで落ちついてきたように感じます。

当番の方々が、毎月丁寧に神前の清掃をされ、各お部屋も整理整頓され、教主さまをお迎えた大祭の頃のように清々しく保たれており、大変感謝しております。

旧の本苑は年月をかけ、継ぎ足して工夫された建て方でした。今でも、庭木の落ち葉の様子や廊下の色合いも忘れ得ず、人々が笑顔で集う思い出つきな場所です。

本苑新築が決まってから、片付け、引っ越し、取り壊し等、少し寂しくもありましたが、多くの皆さんがお手伝いをされ、力の限り尽くして更地に、新たに作り替える作業は、多くの方々の結束なくして出来るものではありません。時を同じくして直心会のお役をいただき、様々な作業のお手伝いをさせてもらうことになりました。年齢は多少異なりますが、分相応の体力を維持でき、もう限界かと思う時も、その時に必要な人の協力を得ることができ、無事に進んできました。

これから、諸行事をはじめ、月次祭には、直会の手作りおにぎりやお茶席も始まりました。人々の活気ある穏やかな行動は、本苑の隅々まで浸透していくことと思います。地方機関らしい、生業と御神業の調和のとれた神の家になることを願っています。

十曜の紋が青い空に映え美しく輝いています。以前のままの海の香りのする本苑の空気を満喫しに皆さんこそぞってお参り下さい。

玄関の前に佇むと、霊界から応援してくださっている多くの方々のお顔が、走馬灯のように思い出されます。多くの先人の方々に、皆さんの努力と真心が伝わり誇らしく思っていたら、是非、お褒めの言葉を頂戴したいものです。

「しかし、新築の効果なのか、「お取次ぎ」の影響なのか判断が難しい状況でした。その後、兄の「ガン指数」は正常値が続きました。私は神のご加護によるものだと考え、綾部の長生殿へ「お礼参りに」行くことと兄を誘いました。しかし、兄は医学の力によって良くなったのだから「お礼参りに」行く必要はないと主張しましたので、私は断念しました。その後、兄は「お取次ぎ」を断り、また家への訪問も拒否されることになりました。兄の病状を直接把握することができなくなり、義理の姉からの情報によれば、「ガン指数」が急速に上昇し、再入院して治療することになったそうです。しかし、回復は望めず、兄は息を引き取ることになりました。兄は無神論者であり、私の一言が災いをもたらす結果となり、後悔することになりました。

信仰するか医学を信じるかは、個々の信念によって異なります。おかげを受けるか否かには、双方の考え方に異なる問題があるように思われます。

霊界物語全国一斉拝読会 のお知らせ

10月18日(水)に、『第55回霊界物語全国一斉拝読会』が開催されます。大本信徒が、同時にご神書に触れさせていただく大切な時間です。各分所、支部におかれましても、一人でも多くの方々が拝読会に参加されご神書を拝読されますよう、呼びかけをよろしくお願い致します。 青年部長 三矢 馨直

令和5年 三河本苑 少年夏季学級

ご報告

7月23日に開催「少年夏期学級」は、子供9名、青年4名、大人16名にて「プランタ菜園」「水族館」「カレー」「海鮮丼」「ゲーム」等、楽しさいっぱいでした。

後継者育成担当 野田 実

夏の思い出、いっぱい!



遺稿「み手代お取次ぎ」と「祈願」のご神徳

松永孝司三河本苑特任宣伝使におかれましては、7月16日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

松永特任宣伝使の遺稿を東海教区HPにて公開しております。この遺稿は、8月7日の「み手代下付100周年記念 全国宣伝使・信徒の集い」で発表される予定でした。なお、8月7日当日は司会が原稿を読み上げました。

①「大腸がんの兄」 特任宣伝使 松永孝司

私の実の兄についてですが、ある時突然下血があり、救急車で病院に運ばれ、「大腸がん」と診断されました。癌は全身に転移しており、重症部分を切除し、転移治療は抗がん剤による対処となりました。新築の抗がん剤を使用して通院治療を行うことになりました。

その後、私は兄の家に「お取次ぎ」に行くことになりました。兄は違和感なく私のお取り次ぎを受け入れてくれました。抗がん剤治療で通院していましたが、私が「お取次ぎ」を始めてから、診察のたびに「ガン指数」が下がり、健康な数値に回復しました。担当医はこれを奇跡と言っており、医学界で発表したいと申し出があり、兄は同意し、新築の効果事例として紹介されました。その結果、医学界では大変好評だったそうです。